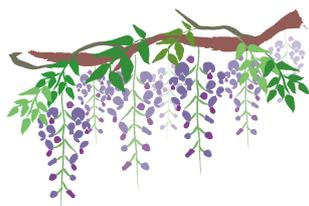


信愛館だより

Vol.133
2020年5月号

発行/ケアハウス信愛館
近江八幡市北之庄町492-2
TEL/0748-32-2220
FAX/0748-33-7555
http://www.shinaikan.com
Mail/vories@zb.ztv.ne.jp

みよ、兄弟達が一つになって共に住むことは、(詩篇133の1)
なんといいあわせ、なんといい楽しさであろう



「わが師」

入居者 武地孝治

人生百年の時代であるという。91歳、あと9年で終わりである。91年のうち70年近くを医師として大過なく過ごしてこられたのはその折々の素晴らしい師のお陰であった。

大学卒業後、胃腸科へ入局した。無給助手である。当時の花形は呼吸器内科であった。

回診の途中、教授から「あの患者さんの財布も考えたかね」必要以上の濃厚な医療をたしなめられる。国民皆保険になっていなかった。

疾病の診断治療だけでなく、病者を診ることを教えられた。

「きみの家は母親だけだったね」病者の経済状況だけでなく、教室員の懐具合をも考えてくださる。ふつう3年の無給助手生活を1年あまりで山奥の病院へ赴任させてくださった。

この子が麻疹でと連れてくる母親へ「麻疹とわかっているのなら診ることはない」厳しいことをおっしゃる院長だったが往診からの帰りが遅くなるのを夕食しないで待っていてくださり、ご自分は飲めない酒を飲ましてくださった。

定年を迎えられた教授のあとへ助教授が昇任された。

後年世界消化器病学会の副会長をも務められる新教授に、院長含みの蒲生町病院へ転任を申し渡される。いくら小さい病院でもまだ34歳、後込みするのへ、俺が教授になったのが42歳、ケネディが大統領になったのが44歳と押し切られてしまう。

前院長から院長は各科の医療だけを監るのではなく、看護はもちろん給食、清掃、入院患者さんのすべてに気を配るのが院長だと教えられた。

前の院長さんはスリッパで来られた、往診先の患家で言われる。靴の着脱の時間も惜しんで町の医療に尽くされた院長のあとを継ぐのはしんどかった。

師ばかりでなく先輩や後輩の医師、看護師や事務職員たちにも支えられたし、なによりも数万人を越す患者さんたちに助けられ学ばせてもらった70年であった。大病のために医療を離れて3年、ケアハウスを終の住処とし、施設長はじめケアハウススタッフに支えられて安穏な日々を過ごすのがこれからの願いである。

キリスト教 あいうえお「エキュメニカル」

近江金田教会牧師 横田 明典

キリスト教には、いわゆる教派があります。大きくはカトリックとプロテスタントです。カトリック教会は一つなのですが、プロテスタント教会は更に細かな教派があります。聖公会、ルーテル、バプテスト、メソジストなど、教派は世界中に散らばっていますし、日本にも百近くの教派があります。

20世紀になって、プロテスタント教会の中で、これらの異なる教派で対話を進め、和解や一致を目指そうとする運動が起こります。それがエキュメニカル運動と呼ばれ、その考え方をエキュメニズム（世界教会主義）と言います。当初は全世界の教会の合同を目指していましたが、現在では教派を超えて（超教派）一緒にできることを探していこう、ということになっています。例えば聖書の翻訳や、反戦平和などの運動に協力する等が挙げられます。

必ずしも一緒になることをゴールと見据えるのではなく、教派を超えて対話を続け、協力できる部分は協力する。そんなあり方が世界の教会で、そして日本の教会でも求められているように思います。

◆ クリスマスコンサート（12月17日）



今年も恒例の
クリスマスコンサートを
開催しました！

◆ キャロリング (12月20日)

近江兄弟社中学の生徒の皆さんがキャロリングに来て下さいました。その後、中学生とのおしゃべりタイムを楽しみました。



◆ お餅を食べる会 (12月28日)



つきたてのお餅は格別です!

◆ 酒蔵ツアー (1月24日、2月12日)



岡村本家



藤居本家



◆ 絵本を読む会 (2月10日)



入居者の鶴谷頼子さんに「スーホーの白い馬」の読み聞かせをしていただきました。

◆ ぜんざいの会 (2月25日)

温かくて、甘い
ぜんざいに
ほっこりします。



◆ 音楽鑑賞会 (3月10日)



4階ラウンジで
辻井信行さん演奏
モーツァルトの
ピアノ曲を鑑賞しました。

編集
後記

新年度となり、1ヶ月が経ちました。寒かった季節もいつの間にか過ぎ去り、暑い夏目前です。

十分な食事と睡眠、適度な運動を行い、暑い夏を乗り越えられる体づくりをしていきましょう。

